

玉乃光酒造

たまのひかりしゅぞう

京都

伏見

歴史

延宝元年（1673年）初代中屋六左衛門が和歌山市寄合町において、紀州徳川藩の免許により清酒製造業を創め、11代目に戦災以後、京都伏見に移転いたしました。昭和39年、米100%の純米清酒を業界にさがけて弊社独自に開発し、以後純米清酒の品質向上に尽力して今日に至る。

玉乃光の酒銘は代々六左衛門が紀州熊野の速玉神社に帰依しており、主神たる「天照大神の御魂が映える」という意味を込めて命名されたと伝えられています。

蔵元からのメッセージ

延宝元年（1673年）、玉乃光は生まれました。340年。はじめに、はじめに、去年より良い酒をといい思いで、日本酒を造りつづけてきました。派手な酒ではありません。今風の流行とも無縁です。目指したのは、飽きのこない酒。食事を引き立てる定番。ただそれだけのために、米の品種はもちろん、田植への仕方にもこだわり、業界に先駆け、「純米酒」を復活させました。玉乃光の日本酒は、米と水と麴。そして、時代に左右されずに、ただ良い酒をつくるという心意気だけで、造られています。

米、水、麴、心意気。
ただ良い酒を、340年。



モットー

日本酒を本来の伝統的な姿（純米酒）に戻すべきだと考え「よい酒づくりはよい酒米づくりから」を信念に米100%の純米吟醸酒に磨きをかけ、真に米100%の日本酒の良さを伝えていく。

杜氏

白崎 哲也

昭和55年生まれ；36歳。大阪府出身。

平成12年に玉乃光酒造に入社。以来、同社の歴代の杜氏の元で修業。

上田杜氏（但馬）に酒造りの基本を、松本杜氏（能登）に醸造りの極意を、森本杜氏（但馬）に酒造りの奥深さを学ぶ。

平成27年に森本杜氏より玉乃光酒造の杜氏を引き継ぎ、現在に至る。

340年の歴史を持つ玉乃光酒造の杜氏として、純米吟醸の酒造りに日々研鑽している。



